

中野小学校の ESD 活動

<活動の概要>

当校は、「なかよく かしこく のびゆく子」を学校理念として、ESDを持続可能な社会づくりの担い手を育む教育と捉え、ESDの実践を通して自他と対話し、学んだことを自らの学習に生かしたり、家庭や地域とつながったりする力の育成を目標としている。具体的には、①福祉に関わる活動、②食育に関わる活動、③環境に関わる学習を中心に実施している。

・活動の実際

① 福祉

中野小学区にある聾学校と学年ごとに交流活動を実施している。互いに楽しめるよう、相手の立場にたった交流内容や場のもち方を考え、聾学校児童への理解と友情を深めている。「みんなが笑顔になること」「互いの違いやよさを認め合いながら共生すること」が大切であると気づき、積極的にかかわろうとする姿が多くみられるようになった。

また、5年生は、「みんながくらしやすい社会をめざして」をテーマに、ESD活動を実施している。地域の方から、高齢者の方々の生活の様子や認知症についての話を聞き、さまざまな人の思いに迫り、理解を深め、自分たちにもできる『福祉』に向き合っている。自分なりの福祉を見出すことで、「社会の一員」として自覚の芽生えを促している。



福祉体験学習

② 食育

中野小学校の給食は、東側に隣接する南部給食センターから届けていただいている。子どもたちにとって身近な存在となっている給食センターと交流を重ねながら、食べ物への関心を高め、生涯にわたり健康で豊かな心と体を育むための望ましい食生活についての学習を各教科や領域と系統的につなげ、「食」に関する学習活動を展開している。栄養教諭の指導のもと、給食の食材や栄養面、SDGsと関連させ、「残食」にも向き合いながら「食育」を展開している。

ナスやミニトマト、米などの地場産物を教材に、生産者さんから直接お話を聞く活動や、毎月発行している「食育だより」を通じた、家庭や地域との連携も、年々深まりつつある。



ナス生産者さんとの交流

③ 環境

本校の中庭「わんパーク」には、木の遊具やどろんこ山、ビオトープがあり、子どもたちにとって憩いと学びの場となっている。本校児童は、年間を通してビオトープにいる生物を観察しながら生活し、学びに生かしている。

水生生物や植物が生息するビオトープの環境を身近に感じながら、生き物にとってすみやすい環境づくりに取り組んできたことで、環境保全への関心は徐々に高まってきた。さまざまな「本物」にふれながら、生き物がすみつけられる環境づくりに奮闘している。持続可能な社会の担い手となるための資質向上に向け、人と野生生物との共生についての考えが深まり広がるよう、今後も取り組んでいきたい。



ビオトープの活動